



〈雑録〉普魯西農業界ニ於ケル機械ノ使用

高岡，熊雄

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 8(6):997-1000

(Issue Date)

1910-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051579>



普魯西農業界ニ於ケル 機械ノ使用

農學士 高岡熊雄

(Deutsche ländl. Genossenschafts presse

XXXVII. Jahrgang No. 4)

千九百〇七年六月二十一日普魯西王國ニ於テ
實施セシ農業經營調査ハ千八百九十五年ノ調査
ト等シク機械ヲ使用スル農業經營ノ調査ヲナセ

リ今其ノ結果ヲ見ルニ左ノ如シ

經營數

千八百九十五年千九百〇七年內機械ヲ所有スルモノ

蒸汽犁	一九〇元	二六五	三七六
散播器	一九〇元	二四三	二〇五元九
牧草收穫器	三三八七	一八二〇八	一六七九四八
播種器	一〇一、三六四	六〇一〇	四四、五二
攪拌器	四、五三〇	一〇、五九	九、五二
蒸汽脫稈器	一一八〇八	二〇、〇二	一三七七
其ノ他ノ脫稈器	三三〇、二六七	五、七一一七	五〇八二九
馬鈴薯播種器	?	二二七	二〇、五六
馬鈴薯收穫器	?	四、六五八	四、二二
碎穀器	?	一四、〇五七	一三八六〇
脂肪分離器	四八、〇〇四	二、〇九〇九	二、三三二九
計	六、六二四	一四、三八三	一〇、八七一四

前記十二種ノ大機械ヲ使用スル農業經營數ハ
 千九百〇七年ニ於テ百四十一萬三千八百三十四
 ニ上レリ今之ヲ千八百九十五年ノ六十八萬六千
 百四十一ニ比スレバ増加ノ割合實ニ約百四十一
 パーセントニシテ最近十二ケ年間ニ普魯西農業

界ニ於テ機械使用ノ發達顯著ナルヲ示セリ中ニ
 モ増加ノ特ニ著シキハ脂肪分離器ニシテ千八百
 九十五年ニ此ノ種ノ機械ヲ使用セル經營數ハ四
 萬八千〇〇四ニ過ギザリシガ十二年ノ後ニハ増
 シテ二十三萬〇九百〇九即約五倍トナレリ

機械ヲ使用スル農業經營中ニモ自カラ之ヲ所
 有スルモノアリ或ハ他ニ屬スルモノヲ使用スル
 アリ今機械ヲ使用スル經營總數百四十一萬三千
 八百三十四ノ内自カラ之ヲ所有スルモノ幾何ナ
 ルヤヲ調べルニ其ノ數百〇八萬九千四百四十九ナ
 リ而シテ各種類ノ機械ニ就キ一々之ヲ調査スレ
 バ機械使用ノ經營總數ト機械所有ノ經營數トハ
 殆ンド相平行スルモノ多シ獨リ之ガ例外ハ蒸汽
 犁及蒸汽脫稈器ノ二種アルノミ即蒸汽犁ヲ使用
 スル經營數ハ二千六百三十六蒸汽脫稈器ヲ使用
 スルモノハ二十萬六千〇十二ナルモ自カラ之ヲ
 所有スルモノハ僅カニ前者ニ於テ三百七十八後
 者ニ於テ一萬三千七百三十七ニ過ギズ其ノ餘即

チ前者二千二百五十七ト後者十九萬二千二百七十五トノ經營ハ他ニ所屬スル機械ヲ使用シツ、アルナリ而シテ斯クノ如キ大機械ヲ能ク經濟上有利的ニ使用セント欲セバ廣大ナル經營面積ヲ要スルモノナレバ他ノ農場主若クハ企業主ニ屬スルモノヲ雇使シ或ハ相共同シテ組合ヲ組織シ以テ此種機械使用ノ利益ヲ受クルモノ多キヲ知ルベシ又右ノ數字ハ最近十二ケ年間ニ此種農業機械ニ對スル組合的共同使用ノ著シキ發達ヲナセシコトヲ證明シテ餘アリ次ニ此等二種ノ機械ト異ナリ播種器及ビ牧草收穫器ハ之ヲ使用スル經營數ヨリ推論スルトキハ組合的共同使用ノ範圍狹キハ吾人ノ聊カ意外トナス所ニシテ其ノ理由如何ハ經營調查結果記述ノ發表セラル、日ヲ俟タザル可カラザルナリ

更ニ進ンデ農業界ニ於ケル機械使用ノ程度ヲ經營ノ大小ニ區別シテ研究スルトキハ吾人ハ有益ナル結果ヲ認ムルヲ得即チ曩ニ述ベタル十二種

ノ機械ヲ使用スル經營數ガ各階級ノ全經營數ニ對スル割合ヲ見ルニ左表ノ如シ

表 千八百九十五年 千九百〇七年

小農 (農業用地積二町乃至五町步)	一三、八一	三〇、六
中農ノ中 (五町乃至二十町步)	四五、八〇	七〇、五
中農 (二十町乃至百町步)	七八、七九	九一、八
大農 (百町步以上)	九四、一六	九七、九

上表ニ由レバ機械使用ノ程度ハ農業經營ノ範圍ノ大小ト比例ス而シテ斯ノ如ク大經營ニ於テ小經營ヨリ機械ヲ使用スルモノ、割合多キハ是レニハ蒸汽犁、馬鈴薯播種器、同收穫器等ノ如キハ大地積ノ經營ニ使用シテ始メテ經濟的有利ノ效果ヲ奏スルヲ得ルト共ニ大經營ニ於テハ勞働者缺乏上已ムヲ得ズ機械ヲ使用セザル可カラザルヲ以テナリ前記四種ノ農業經營中耕作面積百町步ニ對スル勞働者ノ數ハ八十七人七、四十三人四、二十人九、及十七人五ナルヲ以テ之ヲ知ルニ足ル

大經營ニ於テ機械ヲ使用スルモノ、割合多キハ前述ノ如キ理由ニ依リ之ヲ説明スルヲ得シ然レドモ之ヨリ一層吾人ノ注意ヲ惹キ起スハ中小農ニ於テ千八百九十五年ヨリ千九百〇七年ニ至ル十二ケ年間ニ機械使用ノ程度著シク増加セシコト是ナリ即チ小農ニ於テハ此期間ニ百二十八パーセント以上中農ノ中ニテハ五十パーセント以上ニ上レリ是レ畢竟組合事業ニ負フ所大ナルヤ疑ナカルベク實ニ組合制度起リテ初メテ經濟的ニ能ク中小農ヲシテ大機械使用ノ利益ヲ受クルニ至ラシメタリト謂フベシ而シテ前記ノ統計ハ同時ニ又中小農ヲシテ今一層廣ク機械ヲ使用セシムル爲メ組合事業ノ活動スベキ餘地ノ尙充分ニ存スルコトヲ示セリ云々